2023年8月1日

広報 IR 部

2024 年 3 月期第１四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2023 年８月１日 火曜日 15:00～１6:00

Q1．24 年 3 月期通期の事業利益計画について

A1． 不透明な外部環境から事業利益計画は据え置いているが、400 億円を見据えて、期初計画 380 億円以上の事業利益を達成させたい。

Q2．加工事業の改善活動が前年差△２６億円となることについて

A2． 中華名菜等の回復が遅れていることや低収益商品の構成比が上昇したことが大きい。また、シャウエッセン等のブランド価値向上に向けた広告宣伝費を投入する点もあげられる。

Q３．加工事業の低収益商品の今後の考え方について

A３． 原料価格が高止まり、利益を確保することが難しいことから、製造経費を抑え適正な利益が確保できるように製造体制の最適化と価格改定を実施していく。

Q４．食肉事業の利益水準について

A４． １Q の事業利益率は 5.3%と前年から 1.3%改善した。フード営業の伸長は我々の想定を超えており、今期の食肉事業を牽引すると考えている。販売環境が改善する中、フード営業はその実力を遺憾なく発揮できる。そのため、今後も５%~6%の利益率を維持できると考えている。

Q５．食肉事業の輸入食肉在庫について

A５． 国内の在庫水準が高いのは事実であるが、先高感やブラジル産鶏肉の鳥インフルエンザ（AI)拡大懸念等の先行き不透明感が起因している。当社の在庫も高水準だが、前年の反省から計画的な買付を進めており、在庫コントロールは出来ている。輸入食肉（鶏肉）は AI 影響を見込んでいないため、AI 次第では相場も上昇し、計画が上振れる可能性はある。

Q６．海外事業の豪州の通期利益計画が前年差△7 億円となることについて

A６． １Q は豪州産牛肉の販売数量は前年を超えたが、販売価格が世界的な需要低迷で想定を下回ったことが影響している。生体価格は下落しているため、今後は徐々に回復に向かうと見込んでいる。中長期的に見ても、米国産牛肉の減産予測もあり、豪州産牛肉の競争力は高まってくる。

Q７．ボールパーク事業の今後の見通しについて

A７．北海道ボールパークＦビレッジが開業し、ビジネスモデルが大きく変わった。シーズンオフでも誘客できる仕組みづくりを進めている。営業利益 26 億円の期初計画を達成させたい。

以上